

企画調整局

【Plan】 計画 / 【Do】 実施												【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
I-2-(1)- ② 大学などの 教育研究 機能の 充実	1	④	④ ⑨	公立大学法人北九 州市立大学運営事 業	企画 課	公立大学法人の設置者 として、地方独立行政法 人法第42条に基づき、業 務運営に必要な経費を交 付し、法人の業務運営の 健全性を確保する。	公立大学法人北九州 市立大学評価委員会 における各事業年度 に係る業務に対する 評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	継続	2,325,750	2,464,100	増額	13,200	課長	0.30	順調	第三期中期計画の実践に向 け、引き続き公立大学法人北九 州市立大学の健全な業務運営と 教育研究の高度化・個性化、地 域への貢献などを支援する。 また、老朽化施設の改修等施 設整備を支援する。	順調	引き続き公立大学法人北九州 市立大学の健全な業務運営と教 育研究の高度化、地域への貢献 などの支援に努めていく。
								実績	—	—	—							—	係長				
							公立大学法人北九州 市立大学評価委員会 における中期目標期 間に係る業務に対す る評価	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	A (R4年度)											
							実績	—	—	—	—												
								達成率	—	—	—												

企画調整局

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善														
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）		
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数	
I-2-(1)- ④ シンクタンクを活用した調査・研究機能の強化	2	④	④ ⑨	公立大学法人北九州市立大学運営事業	企画課	北九州市立大学地域戦略研究所での地域研究プロジェクト、受託調査を通じて、地域研究の高度化を推進する。	公立大学法人北九州市立大学評価委員会における各事業年度に係る業務に対する評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	継続	2,325,750	2,464,100	増額	13,200	課長	0.30	順調	第三期中期計画の実践に向け、引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化・個性化、地域への貢献などを支援する。 また、老朽化施設の改修等施設整備を支援する。	順調	引き続き公立大学法人北九州市立大学の健全な業務運営と教育研究の高度化、地域への貢献などの支援に努めていく。 アジア成長研究所については、今後も地域の政策課題や企業活動の一助となる取り組みを重点的に進めていく。	
								実績	—	—	—							—	係長					0.30
								達成率	—	—	—							—	職員					0.90
								単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	単年度目標設定なし	—							—	—					
	3	⑨	④ ⑨ ⑪	(公財)アジア成長研究所補助金	国際政策課	本市がアジアの中核的な産業都市として持続的な成長を実現するため、国際水準の知的基盤の強化と地域への知的貢献を目的とする活動を行う(公財)アジア成長研究所に補助金を交付する。	著名な学術雑誌への論文掲載数	目標	5 本	5 本	5 本	5本 (毎年度)	継続	140,000	140,000	維持	4,650	課長	0.10	順調	知的基盤としての高い水準を保ちながら、一層の「地域貢献」を推進するために、地域の政策課題や企業活動の一助となる取り組みを重点的に進めていく。	順調		
								実績	9 本	—	—							—	—				—	
							科学研究費を含む外部資金獲得数	目標	6 件	6 件	6 件	6件 (毎年度)				職員	0.20							
								実績	6 件	—	—													
							達成率	100.0 %	—	—														

企画調整局

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善																						
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）													
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数												
I-2-(2)- ③ アジアなどの架 け橋となる人材の 育成	4	④	④ ⑨	公立大学法人北九 州市立大学運営事 業	企画 課	公立大学法人の設置者 として、地方独立行政法 人法第42条に基づき、業 務運営に必要な経費を交 付し、法人の業務運営の 健全性を確保する。	公立大学法人北九州 市立大学評価委員会 における各事業年度に 係る業務に対する評価	目標	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (計画どおり)	A (毎年度)	継続	2,325,750	2,464,100	増額	13,200	課長	0.30	順調	第三期中期計画の実践に向 け、引き続き公立大学法人北九 州市立大学の健全な業務運営と 教育研究の高度化・個性化、地 域への貢献などを支援する。 また、老朽化施設の改修等施 設整備を支援する。	順調	引き続き公立大学法人北九州 市立大学の健全な業務運営と教 育研究の高度化、地域への貢献 などを支援する。 留学生の受入定着促進につい ては、留学生支援に取り組むと ともに、留学生実態調査を実施 し、留学生支援事業を体系的に 推進していくためのニーズ把握 を行う。												
								実績											係長					0.30											
								達成率	—										職員					0.90											
								目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし							A (R4年度)																	
	実績	—																																	
	達成率	—																																	
目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	A (R1年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	課長	0.30	順調	引き続き、留学生支援に取り 組むとともに、留学生実態調査 を実施し、留学生支援事業を体 系的に推進していくためのニー ズ把握を行う。 【指標廃止・追加の理由】 本事業の目的が外国人の長 期的な本市への定着であるため、 より具体的な指標として留学生 の市内企業への就職者数50人 以上（R2年度）に変更。																						
実績	+1,273人																																		
達成率	90.9%																																		
目標	+1,400人	+1,600人																																	
5	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向けた 留学生等受入定着 促進事業	国際 政策 課	留学生等を地域で支 える体制を構築し、留学誘 致、生活支援、就職支援 の各施策を一体的に実施 し、定着促進を図る。	外国人人口の社会動 態増加数（H28年増 加数比） ※指標廃止	外国人社会動 態増加数+ 1,010人	目標				+1,600人 (R2年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	係長	0.30	順調	引き続き、留学生支援に取り 組むとともに、留学生実態調査 を実施し、留学生支援事業を体 系的に推進していくためのニー ズ把握を行う。 【指標廃止・追加の理由】 本事業の目的が外国人の長 期的な本市への定着であるため、 より具体的な指標として留学生 の市内企業への就職者数50人 以上（R2年度）に変更。	順調	引き続き公立大学法人北九州 市立大学の健全な業務運営と教 育研究の高度化、地域への貢献 などを支援する。 留学生の受入定着促進につい ては、留学生支援に取り組むと ともに、留学生実態調査を実施 し、留学生支援事業を体系的に 推進していくためのニーズ把握 を行う。												
								実績																											
								達成率																											
								目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	35.0%													35.0% (R2年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	職員	0.30	順調	引き続き、留学生支援に取り 組むとともに、留学生実態調査 を実施し、留学生支援事業を体 系的に推進していくためのニー ズ把握を行う。 【指標廃止・追加の理由】 本事業の目的が外国人の長 期的な本市への定着であるため、 より具体的な指標として留学生 の市内企業への就職者数50人 以上（R2年度）に変更。		
								実績	—																										
								達成率	—																										
目標			50人以上	50人以上 (R2年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	職員	0.30	順調	引き続き、留学生支援に取り 組むとともに、留学生実態調査 を実施し、留学生支援事業を体 系的に推進していくためのニー ズ把握を行う。 【指標廃止・追加の理由】 本事業の目的が外国人の長 期的な本市への定着であるため、 より具体的な指標として留学生 の市内企業への就職者数50人 以上（R2年度）に変更。																						
実績																																			
達成率																																			
目標																																			

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）			
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数		
II-3-(3)- ① 多文化共生社会の実現に向けた体制の構築	6	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際政策課	外国人市民が安心して暮らすことができる多文化共生のまちづくりを推進するため、外国人市民が抱える生活上の諸問題や支援に対するニーズの把握を行う。 市民の「多文化共生」という言葉の認知度 ※中期目標改訂	51.8% (H29年度)	目標 50 %	実績 54.8 %	達成率 109.6 %	53 %	53 %	60% (R6年度)	継続	57,040	43,565	減額	3,075	課長 0.05 人	係長 0.10 人	職員 0.20 人	順調	外国人市民も日本人と同様に地域の一員として生活していけるよう、引き続き多文化共生意識啓発に取り組む。 【中期目標の変更内容】 中期目標を53%（R1年度）にしていたが、今後も多文化共生の意識啓発を進めていくため、60%（R6年度）に変更。		
	7	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向けた留学生等受入定着促進事業	国際政策課	留学生等を地域で支える体制を構築し、留学誘致、生活支援、就職支援の各施策を一体的に実施し、定着促進を図る。 留学生と地元企業の相互理解度 留学生等高度人材活用の向上（企業との相互理解が進んだ状態＝留学生が市内企業の情報を4社以上知っている）	外国人社会動態増加数+1,010人	目標 +1,400 人	実績 +1,273 人	達成率 90.9 %	+1,600 人	+1,600人 (R1年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	課長 0.30 人	係長 0.30 人	職員 0.30 人	順調	引き続き、留学生支援に取り組むとともに、留学生実態調査を実施し、留学生支援事業を体系的に推進していくためのニーズ把握を行う。 【指標廃止・追加の理由】 本事業の目的が外国人の長期的な本市への定着であるため、より具体的な指標として留学生の市内企業への就職者数50人以上（R2年度）に変更。	順調	留学生を含む外国人市民の意見を聴取するとともに、日本人市民も含めた多文化共生の意識啓発を進めて、外国人、日本人両方へ働きかける効果的な事業実施に努めていく。	
	8	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワンストップインフォメーションセンター関連事業	国際政策課	外国人市民が安心して生活するための情報提供や相談に多言語で一元的に対応する「北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンター」の運営を行う。 外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答） ※中期目標改訂	79.7% (H26年度)	目標 80 %	実績 80 %	達成率 100 %	単年度目標設定なし	50人以上	50人以上 (R2年度)	—	24,740	24,715	維持	2,325	課長 0.05 人	係長 0.10 人	職員 0.10 人	—	相談窓口等を通じ、外国人市民の生活等の課題やニーズの把握に努めるとともに、相談内容に応じて関係機関と連携し、相談内容の解決につなげる。 【中期目標の変更内容】 中期目標を80%（R1年度）にしていたが、今後も引き続き外国人支援の充実に取り組むため、80%以上（R6年度）に変更。		

企画調整局

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要 ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
II-3-(3)- ② 外国人市民の生活 環境の充実	9	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際 政策 課	日本語の不得手な外国人市民へのサポートとして、行政機関や医療機関（健康診査）に通訳ボランティアを派遣するとともに、災害時通訳も含めた通訳スタッフのスキル向上を図る。 また、多言語等でわかりやすい生活情報の提供をすることにより、外国人市民の安全・安心な生活環境の整備を推進する。 外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答） ※中期目標改訂	79.7% (H26年度)	目標 単年度目標 設定なし	80 %	単年度目標 設定なし	80%以上 (R6年度)	継続	57,040	43,565	減額	10,800	課長 0.20 人	係長 0.40 人	職員 0.60 人	順調	通訳ボランティア等のスキルアップ研修等を行い、質の向上や新規人材の発掘に努めながら、外国人市民が安心して本市で生活するためのサービス充実に向け、より効果的・効率的な対応に努める。 【中期目標の変更内容】 中期目標を80%（R1年度）にしていたが、今後も引き続き外国人支援の充実に取り組むため、80%以上（R6年度）に変更。		
	10	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向けた留学生等受入定着促進事業	国際 政策 課	留学生等を地域で支える体制を構築し、留学誘致、生活支援、就職支援の各施策を一体的に実施し、定着促進を図る。 留学生と地元企業の相互理解度 留学生等高度人材活用の向上（企業との相互理解が進んだ状態＝留学生が市内企業の情報を4社以上知っている） 市内の大学や専門学校を卒業した留学生の市内企業への就職者数 ※指標追加	外国人社会動態増加数+1,010人 ※指標廃止	目標 +1,400 人	+1,600 人	35.0 %	+1,600人 (R1年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	課長 0.30 人	係長 0.30 人	職員 0.30 人	順調	引き続き、留学生支援に取り組むとともに、留学生実態調査を実施し、留学生支援事業を体系的に推進していくためのニーズ把握を行う。 【指標廃止・追加の理由】 本事業の目的が外国人の長期的な本市への定着であるため、より具体的な指標として留学生の市内企業への就職者数50人以上（R2年度）に変更。	順調	国の動きもあり、今後外国人相談窓口における相談内容はより多様化・複雑化することが考えられるため、関係機関と連携しながら効果的な相談対応に努める。
	11	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワンストップインフォメーションセンター関連事業	国際 政策 課	外国人市民が安心して生活するための情報提供や相談に多言語で一元的に対応する「北九州市多文化共生ワンストップインフォメーションセンター」を設置し運営を行う。 外国人市民の生活環境の向上（多文化共生の現状調査で暮らしやすいと回答） ※中期目標改訂	79.7% (H26年度)	目標 単年度目標 設定なし	80 %	単年度目標 設定なし	80%以上 (R6年度)	—	24,740	24,715	維持	2,325	課長 0.05 人	係長 0.10 人	職員 0.10 人	—	相談窓口等を通じ、外国人市民の生活等の課題やニーズの把握に努めるとともに、相談内容に応じて関係機関と連携し、相談内容の解決につなげる。 【中期目標の変更内容】 中期目標を80%（R1年度）にしていたが、今後も引き続き外国人支援の充実に取り組むため、80%以上（R6年度）に変更。		

企画調整局

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善									
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
II-3-(3)- ③ 市民の国際理解の 推進	12	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑫	多文化共生の推進	国際 政策 課	日本人市民に対して、 多文化共生に関する意識 啓発や国際交流の機会や 場の提供を行うことで、 外国人を受け入れる地域 づくりを目指すとともに、 すべての市民が安心して 暮らし、自己の能力を 発揮できる「多文化共 生先進都市」としてのま ちづくりを推進する。	市民の「多文化共 生」という言葉の認 知度 ※中期目標改訂	51.8% (H29年 度)	目標 50 % 実績 54.8 % 達成率 109.6 %	53 % 53 %	60% (R6年度)	継続	57,040	43,565	減額	10,800	課長 0.20 人 係長 0.40 人 職員 0.60 人	順調	外国人市民が増加している地 域において、日本人と外国人の 交流事業を実施するとともに、 庁内向けの「やさしい日本語研 修」等を実施し、市全体で多文 化共生のまちづくりに取り組 む。 【中期目標の変更内容】 中期目標を53%（R1年度）に していたが、今後も多文化共生 の意識啓発を進めていくため、 60%（R6年度）に変更。				
	13	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑫	地方創生に向けた 留学生等受入定着 促進事業	国際 政策 課	留学生等を地域で支え る体制を構築し、留学誘 致、生活支援、就職支援 の各施策を一体的に実施 し、定着促進を図る。	外国人人口の社会動 態増加数（H28年増 加数比） ※指標廃止	外国人社 会動態増 加数＋ 1,010人	目標 ＋1,400 人 実績 ＋1,273 人 達成率 90.9 %	＋1,600 人	＋1,600人 (R1年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	課長 0.30 人 係長 0.30 人 職員 0.30 人	順調	引き続き、留学生支援に取り 組むとともに、留学生実態調査 を実施し、留学生支援事業を体 系的に推進していくためのニー ズ把握を行う。 【指標廃止・追加の理由】 本事業の目的が外国人の長期 的な本市への定着であるため、 より具体的な指標として留学生 の市内企業への就職者数50人 以上（R2年度）に変更。	外国人と日本人の共生事業等 を実施し、外国人市民も地域の 一員として活躍できる「多文 化共生のまちづくり」に取り組 むとともに、庁内においても、 「やさしい日本語」の活用促進 に向けて、研修等実施する。			
							留学生と地元企業の 相互理解度 留学生等高度人材活 用の向上（企業との 相互理解が進んだ状 態＝留学生が市内企 業の情報を4社以上 知っている）	20.9% (H29年 度)	目標 単年度目標 設定なし 実績 — 達成率 —	単年度目標 設定なし 35.0 %	35.0% (R2年度)	継続											
						市内の大学や専門学 校を卒業した留学生 の市内企業への就職 者数 ※指標追加	43人 (H30年 度)	目標 — 実績 — 達成率 —	50人以上	50人以上 (R2年度)													
III-1-(1)- ② 定住促進 や地域活 性化のた めの環境 づくり	14	⑪	③ ⑧ ⑪ ⑫	定住・移住促進事 業	地方 創生 推進 室	北九州市まち・ひと・ しごと創生総合戦略に人 口減少対策の重要な柱の 1つとして位置づける 「定住・移住の促進」を 図るため、首都圏におけ るPRや「北九州市版生涯 活躍のまち」の推進等 に向けて取り組むもの。	北九州市への50歳以 上の転入者の増加数	0人 (H27年 度)	目標 100 人 実績 △59 人 達成率 —	100 人 100 人 100 人	448人 (H28～R2 年度)	継続	48,600	50,590	維持	28,450	課長 0.30 人 係長 1.00 人 職員 2.00 人	やや 遅れ	本市の住みやすさや移住支 援、子育て情報、生涯活躍のま ちを積極的に発信し、本市への 移住促進に努める。また、現 在、移住相談件数が増え続け ていることから、体制を拡充す る。	やや 遅れ	本市への定住・移住促進に向 けて、本市の住みやすさや魅力 などの情報発信に取り組むと ともに、移住支援体制をよりいっ そう充実させていく。		
						50歳以上の「北九州 市すまいるクラブ」 新規登録件数	31件 (H28年12 月)	目標 50 件 実績 103 件 達成率 206.0 %	50 件 50 件 50 件	220件 (H28～R2 年度)													

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善													
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
15	⑪	⑪	⑪	世界遺産維持活用 保全事業	世界遺産課	ユネスコ世界遺産に登録された官営八幡製鐵所関連施設について、その資産の保全と価値の理解増進のため、眺望スペースの運営管理や市内外へ向けた広報・PR活動を展開し、世界遺産を持つ自治体としての責務を果たす。	登録資産の保全 ※中期目標改訂	目標	耐震設計の実施	保全計画策定	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成 （毎年度）	継続	28,000	26,000	減額	5,800	課長	0.20	順調	令和元年度まで、資産の保全を「世界遺産登録資産保全活用事業」で、理解増進のためのPRイベント等を「世界遺産推進事業」で実施してきた。今後はこれらを世界遺産としての基本的業務として、一つの事業に統合して実施していくもの。 本事業は、ユネスコに提出する報告書（インタープリテーション計画、資産保全のモニタリング、定期報告書（アジアは2020年予定））などを内閣官房と協議して作成する。また、「世界遺産のある街北九州市」をPRし、世界遺産への理解を深めることを目標にしている。		
								実績	資産の耐震設計の実施										係長				0.20
								達成率	—										職員				0.20
16	⑪	⑪	⑪	世界遺産連携事業	世界遺産課	世界遺産の特色を生かし、来訪者や子どもたちへのシビックプライドの醸成を図る。	旧本事務所眺望スペースの来場者数 ※指標廃止	目標	5万 人	5万 人		20万人 (H28~R1年度)	継続	6,000	3,800	減額	5,800	課長	0.20	やや遅れ	世界文化遺産に登録された官営八幡製鐵所関連施設について、子どもたちへのシビックプライド醸成やさらなる理解増進、地域との連携による賑わいを創造していくもの。 【指標廃止・追加の理由】 旧本事務所眺望スペースの来場者数としていたが、事業の成果をより明確にするため、新たに眺望スペース来場者の満足度を指標に設定する。	世界遺産登録された構成資産の保全を行うとともに、市内外にさらなる広報や来場者ニーズの調査、受入れ環境の整備等により、新たな活用方法を模索して観光資源としての魅力向上を図る。	
								実績	1万9千 人										係長				0.20
								達成率	38.0 %										職員				0.20
16	⑪	⑪	⑪	世界遺産連携事業	世界遺産課	世界遺産の特色を生かし、来訪者や子どもたちへのシビックプライドの醸成を図る。	眺望スペース来場者の満足度 ※指標追加	目標			50 %	60% (R4年度)	継続	6,000	3,800	減額	5,800	課長	0.20	やや遅れ	世界文化遺産に登録された官営八幡製鐵所関連施設について、子どもたちへのシビックプライド醸成やさらなる理解増進、地域との連携による賑わいを創造していくもの。 【指標廃止・追加の理由】 旧本事務所眺望スペースの来場者数としていたが、事業の成果をより明確にするため、新たに眺望スペース来場者の満足度を指標に設定する。	世界遺産登録された構成資産の保全を行うとともに、市内外にさらなる広報や来場者ニーズの調査、受入れ環境の整備等により、新たな活用方法を模索して観光資源としての魅力向上を図る。	
								実績											係長				0.20
								達成率											職員				0.20
17	⑪	⑪	⑪	<新>世界遺産集客にぎわい創造事業	世界遺産課	旧本事務所見学バスツアーを実施するとともに、バスツアーにおけるガイドの充実を図る。	バスツアーの参加者数	目標			180 人	180人 (R4年度)	—	—	10,000	—	5,800	課長	0.20	—	世界遺産の構成資産である旧本事務所について、建物内部での展示・解説を整備して、内部見学バスツアーを再開するとともに、ガイドの質の向上を図るなどにより来訪者の増加、満足度の向上につなげる。		
								実績											係長				0.20
								達成率											職員				0.20

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善													
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
IV-3-(1)- ② 地域企業 のニーズ に沿った 人材育 成・確保 の促進	18	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向けた 留学生等受入定着 促進事業	国際 政策 課	留学生等を地域で支 える体制を構築し、留学誘 致、生活支援、就職支援 の各施策を一体的に実施 し、定着促進を図る。	外国人人口の社会動 態増加数（H28年増 加数比） ※指標廃止	目標	+1,400 人	+1,600 人		+1,600人 (R1年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	課 長	0.30 人	順調	引き続き、留学生支援に取り 組むとともに、留学生実態調査 を実施し、留学生支援事業を体 系的に推進していくためのニー ズ把握を行う。	外国人人口の社会動態増加に 向け、留学誘致のためのPRツ ールを広く活用してもらうための 周知に取り組む。また、留学生 実態調査を実施し、今後の支援 事業の方向性決定のためのニー ズ把握を行う。	
								実績	+1,273 人														
								達成率	90.9 %														
						留学生と地元企業の 相互理解度 留学生等高度人材活 用の向上（企業との 相互理解が進んだ状 態＝留学生が市内企 業の情報を4社以上 知っている）	目標	単年度目標 設定なし	単年度目標 設定なし	35.0 %	35.0% (R2年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	係 長	0.30 人	順調	【指標廃止・追加の理由】 本事業の目的が外国人の長期 的な本市への定着であるため、 より具体的な指標として留学生 の市内企業への就職者数50人 以上（R2年度）に変更。			
実績	—																						
達成率	—																						
						市内の大学や専門学 校を卒業した留学生 の市内企業への就職 者数 ※指標追加	目標			50人以上	50人以上 (R2年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	職 員	0.30 人	順調	【指標廃止・追加の理由】 本事業の目的が外国人の長期 的な本市への定着であるため、 より具体的な指標として留学生 の市内企業への就職者数50人 以上（R2年度）に変更。			
実績																							
達成率																							
19	⑧	⑧	⑧	<新>地元就職促 進に向けた市内大 学助成事業	企画 課	大学生の地元就職の促 進等に取り組む市内大学 に対して、新たな助成制 度により支援すること で、市と大学が連携して 地域と大学の活性化に取 り組むもの。	市内10大学の地元就 職者数 R1年度値 を設定	目標			前年度比 増	前年度比 増 (R4年度)	—	—	50,000	—	8,300	課 長	0.20 人	—	第2期北九州市まち・ひと・し ごと創生総合戦略の基本目標の 一つである、市内大学生地元就 職者数の達成に向け、地元就職 促進に有効な事業を実施する市 内大学に対して、助成金交付に よる支援を行うことで、若者の 地元定着による社会動態の改 善、及び地元企業の学卒採用の 促進を図るもの。		
								実績															
								達成率															
20	⑪	⑧ ⑪	⑧ ⑪	KitaQフェス in TOKYO開催事業	東京 事務所	首都圏における認知度 やイメージの一層の向上 を図り、首都圏からの交 流人口の拡大や移住、U- Iターンを促進するた め、都内において、本市 の様々な魅力を発信する イベントを開催する。	イベントを契機とし たネットワークの構 築 ※指標廃止	目標	1,000 人	1,000 人		累計 3,000人 (R2年度)	継続	20,000	20,000	維持	20,700	課 長	0.30 人	大変 順調	「KitaQフェス」の実施を通し て生まれた新たなネットワーク を活用し、東京から北九州市へ の交流人口の拡大、U・Iター ン就職や移住などを推進していく。		
								実績	2,206 人														
								達成率	220.6 %														
						KitaQサポーター新 規登録者数 ※指標追加	目標			500 人	登録者数 計2,600 人 (R3年度)	継続	20,000	20,000	維持	20,700	係 長	1.50 人	大変 順調	【指標廃止・追加の理由】 首都圏でのネットワーク構築 については、KitaQサポーターへ の情報配信がベースにあり、成 果指標（中期目標）として 「KitaQサポーター新規登録者 数」に統一するもの。			
実績																							
達成率																							
							目標					登録者数 計2,600 人 (R3年度)	継続	20,000	20,000	維持	20,700	職 員	0.30 人	【指標廃止・追加の理由】 首都圏でのネットワーク構築 については、KitaQサポーターへ の情報配信がベースにあり、成 果指標（中期目標）として 「KitaQサポーター新規登録者 数」に統一するもの。			
実績																							
達成率																							

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善													
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）		
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数	
IV-4-(1)- ①北九州の 魅力づくり	21	⑪	⑧ ⑪	北九州市魅力発信 事業	地方 創生 推進 室	<p>市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。また、日頃本市行政へ協力的な主に市外居住者の方に対し、本市への一層の愛着と誇りを共有し、活動への感謝と今後のさらなる取り組みをお願いする場として「北九州市応援団の集い」を開催する。</p>	<p>本市への愛着があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合</p>	目標	90.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年度)	継続	11,400	11,286	維持	8,700	課長	0.30	人	順調	<p>これまでの取組により「北九州市 時と風の博物館」の会員数は伸びている。今後は、本サイトを若い世代への魅力発信ツールとして有効活用するため、投稿しやすい仕組みや企画を充実する。</p> <p>また、「北九州市応援団の集い」については、首都圏の他イベントとの連携や融合等、首都圏在住の本市ゆかりの方々に、効果的に本市への愛着や誇りを共有してもらえる取組を検討していく。</p>	順調	<p>これまでの取り組みにより、目標値に向けて微増ではあるが順調に推移している。今後は特に若い世代に本市の魅力を感じてもらえるよう、新たなコンテンツの掘起しなどを進めるとともに、効果的な情報発信により外部からの評価を高めることで、市民のシビックプライドの醸成に繋げる。</p>
								実績	79.3% (H25年度)	80.8 %									達成率					
IV-4-(2)- ①戦略的な シティプロ モーションの 展開	22	⑪	⑧ ⑪	北九州市魅力発信 事業	地方 創生 推進 室	<p>市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。また、日頃本市行政へ協力的な主に市外居住者の方に対し、本市への一層の愛着と誇りを共有し、活動への感謝と今後のさらなる取り組みをお願いする場として「北九州市応援団の集い」を開催する。</p>	<p>本市への愛着があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合</p>	目標	90.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年度)	継続	11,400	11,286	維持	8,700	課長	0.30	人	順調	<p>これまでの取組により「北九州市 時と風の博物館」の会員数は伸びている。今後は、本サイトを若い世代への魅力発信ツールとして有効活用するため、投稿しやすい仕組みや企画を充実する。</p> <p>また、「北九州市応援団の集い」については、首都圏の他イベントとの連携や融合等、首都圏在住の本市ゆかりの方々に、効果的に本市への愛着や誇りを共有してもらえる取組を検討していく。</p>	順調	<p>これまでの取り組みにより、目標値に向けて微増ではあるが順調に推移している。既存のウェブサイトや若い世代への情報発信ツールとして有効活用するため、投稿方法の見直しなどを行う。また「北九州市応援団の集い」など人的ネットワークによるシティプロモーションを展開するとともに、首都圏等に向けての情報発信を戦略的に実施する。</p>
								実績	79.3% (H25年度)	80.8 %									達成率					
IV-4-(2)- ①戦略的な シティプロ モーションの 展開	22	⑪	⑧ ⑪	北九州市魅力発信 事業	地方 創生 推進 室	<p>市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。また、日頃本市行政へ協力的な主に市外居住者の方に対し、本市への一層の愛着と誇りを共有し、活動への感謝と今後のさらなる取り組みをお願いする場として「北九州市応援団の集い」を開催する。</p>	<p>本市が好きだと答えた（肯定的な回答をした）市民の割合</p>	目標	90.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年度)	継続	11,400	11,286	維持	8,700	係長	0.30	人	順調	<p>これまでの取組により「北九州市 時と風の博物館」の会員数は伸びている。今後は、本サイトを若い世代への魅力発信ツールとして有効活用するため、投稿しやすい仕組みや企画を充実する。</p> <p>また、「北九州市応援団の集い」については、首都圏の他イベントとの連携や融合等、首都圏在住の本市ゆかりの方々に、効果的に本市への愛着や誇りを共有してもらえる取組を検討していく。</p>	順調	<p>これまでの取り組みにより、目標値に向けて微増ではあるが順調に推移している。既存のウェブサイトや若い世代への情報発信ツールとして有効活用するため、投稿方法の見直しなどを行う。また「北九州市応援団の集い」など人的ネットワークによるシティプロモーションを展開するとともに、首都圏等に向けての情報発信を戦略的に実施する。</p>
								実績	78.5% (H25年度)	85.5 %									達成率					

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善														
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）		
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数	
IV-4-(2)- ② 北九州を 応援する 人のネット ワークによる 情報発信	23	⑩	⑧ ⑪	北九州市魅力発信 事業	地方 創生 推進 室	<p>市民自らがまちの魅力を発信するウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、本市の魅力を発掘・再発見し、さらに情報の共有や補足等を行うことで、地域資源を磨きあげ、効果的な情報発信を展開する。</p> <p>また、日頃本市行政へ協力的な主に市外居住者の方に対し、本市への一層の愛着と誇りを共有し、活動への感謝と今後のさらなる取り組みをお願いする場として「北九州市応援団の集い」を開催する。</p>	<p>本市が好きだと答えた（肯定的な回答をした）市民の割合</p>	78.5% (H25年度)	<p>目標 90.0 %</p> <p>実績 85.5 %</p> <p>達成率 95.0 %</p>	90.0 %	90.0 %	90.0 %	90.0% (R6年度)	継続	11,400	11,286	維持	8,700	課長	0.30	人	順調	<p>これまでの取組により「北九州市 時と風の博物館」の会員数は伸びている。今後は、本サイトを若い世代への魅力発信ツールとして有効活用するため、投稿しやすい仕組みや企画を充実する。また、成果指標の分析を行い、より効果的な取組を検討する。</p> <p>さらに、「北九州市応援団の集い」については、首都圏の他イベントとの連携や融合等、首都圏在住の本市ゆかりの方々に、効果的に本市への愛着や誇りを共有してもらえる取組を検討していく。</p> <p>【中期目標の変更内容】 第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に伴い、75.0%（R1年度）を80.0%（R6年度）に変更した。</p> <p>【指標廃止・追加の理由】 「魅力を答えられない市民の割合を減らすこと」と、「魅力を答えられる市民の割合を増やすこと」は、同じ意味を持つ指標である。 本事業の大きな目的は、本市の魅力を市内外に向けて発信することであるため、その成果指標の表現としては、魅力を答えられる市民の割合を増やすことが、より適当と考えるため変更するもの。</p>	<p>「北九州市が好き」「北九州市が誇り」「北九州市と関わりたい」と思い、市民や市出身者が自ら北九州市の魅力を発信していく輪を広げ、北九州市への愛着・自信・誇りを高めていくために、 （1）ウェブサイト「北九州市 時と風の博物館」を通じて、特に20歳以下の若い世代に対して、シビックプライドの向上や地域情報の効果的な浸透を図る。 （2）「北九州市応援団の集い」の開催や北九州市応援団への戦略的な情報発信等を通して、本市の魅力を市内外で共有し、ロコミなどを活用したシティプロモーションを図る。 また、応援ショップでのイベント、KitaQサポーターへのメーリングリスト配信などを通じて、北九州市の魅力を発信し、KitaQサポーターの獲得につなげていく。 ふるさと寄附金については引き続き魅力的な返礼品の発掘やPRを行うことにより、寄附受入額の増額を目指す。</p>
						<p>本市への誇りや自信があると答えた（肯定的な回答をした）市民の割合</p>	56.7% (H25年度)	<p>目標 75.0 %</p> <p>実績 53.8 %</p> <p>達成率 71.7 %</p>	75.0 %	75.0 %	75.0 %	80.0% (R6年度)												
						<p>※中期目標改訂</p> <p>市外からの来訪者に対し、「北九州市の魅力がいくつ伝えていますか」との質問に対し、「思いつかない」「無回答」と答えた市民の割合</p>	16.8% (H23年度)	<p>目標 5.0 %</p> <p>実績 9.3 %</p> <p>達成率 14.0 %</p>	5.0 %	5.0 %	5.0 %	5.0% (R1年度)												
						<p>※指標追加</p> <p>市外からの来訪者に対し、「北九州市の魅力がいくつ伝えていますか」との質問に対し、「1つ」以上であると答えた市民の割合</p>	83.2% (H23年度)	<p>目標 95.0 %</p> <p>実績 95.0 %</p> <p>達成率 95.0 %</p>	95.0 %	95.0 %	95.0 %	95.0% (R6年度)												
24	⑩	⑧ ⑪	首都圏応援ネットワーク 拡大事業	東京 事務所	<p>首都圏において新たなネットワーク構築のために、サポーターの組織化を進める。さらに北九州市ゆかりの店舗等のネットワーク構築により、民間と連携した情報発信拠点の拡大を図る。</p> <p>これにより、首都圏での北九州市の認知度向上や北九州ファン層の拡大、人・店舗・企業つながりを作る。</p>	<p>北九州市の認知度（地域ブランド調査によるもの）</p>	19位 (H25年度)	<p>目標 10 位以内</p> <p>実績 19 位</p> <p>達成率 —</p>	10 位以内	10 位以内	10 位以内	10 位以内	10 位以内	継続	4,950	4,950	維持	4,900	課長	0.10	人	やや遅れ	<p>応援ショップでのイベント、KitaQサポーターへのメーリングリスト配信などを通じて、北九州市の魅力を発信し、KitaQサポーターの獲得につなげていく。</p> <p>【指標廃止・追加の理由】 首都圏でのネットワーク構築については、KitaQサポーターへの情報配信がベースにあり、成果指標（中期目標）として「KitaQサポーター新規登録者数」に統一するもの。</p>	
					<p>※指標廃止</p>	<p>19位 (H25年度)</p>	<p>目標 10 位以内</p> <p>実績 19 位</p> <p>達成率 —</p>	10 位以内	10 位以内	10 位以内	10 位以内													
					<p>KitaQサポーター新規登録者数</p>	1,131人 (H30年度)	<p>目標 500 人</p> <p>実績 1,131 人</p> <p>達成率 226.2 %</p>	500 人	500 人	500 人	登録者数計2,600人 (R3年度)													
					<p>※指標追加</p>	<p>1,131人 (H30年度)</p>	<p>目標 500 人</p> <p>実績 1,131 人</p> <p>達成率 226.2 %</p>	500 人	500 人	500 人	登録者数計2,600人 (R3年度)													

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
25	⑧	③ ④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑪ ⑰		ふるさと寄附金促進事業	地方 創生 推進 室	「ふるさと北九州市応援寄附金」についてPRし、寄附件数及び寄附金額の増加を図る。 また、寄附金の使い道を寄附者が選択できる仕組みと一定額以上の寄附者に対する地元特産品等の贈呈を通じ、本市の魅力を全国に発信する。	寄附件数	46件 (H24年度)	目標 前年度比 増	前年度比 増	前年度比 増	—	拡大	112,700	335,000	増額	13,950	課長	0.30 人	大変 順調	これまでの取組内容が功を奏しており、令和2年度は魅力的な返礼品の発掘やPRを継続的に実施することで寄附受入額の更なる増加を目指す。なお、歳出予算は寄附受入額に連動する。 (H29年度寄附受入額36,813千円。H30年度寄附受入額197,778千円。R2年度寄附見込額600,000千円)		
						寄附金額	約450万 円 (H24年度)	目標 前年度比 増	前年度比 増	前年度比 増	—					係長	0.30 人						
								実績 11,037 件	達成率 662.1 %								職員	1.00 人					

企画調整局

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善												
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
IV-4-(2)- ③ 都市イ メージの 向上	26	⑪	⑧ ⑪	情報発信・取材協 力事業	地方 創生 推進 室	本市の認知度と都市イ メージの向上を図るた め、新聞、雑誌、テレ ビ、インターネット等の マスメディアを通じた本 市のPRに取り組む。	北九州市の認知度 （地域ブランド調査 によるもの）	目標	10位以内	10位以内	10位以内	10位以内 （毎年度）	継続	20,240	20,037	維持	20,950	課長	0.30	やや 遅れ	若年層を中心とした本市の認 知度向上を課題とし、これまで 同様、雑誌やテレビ、インター ネットなどのマスメディアに加 え、SNSを積極的に活用すること で、本市の都市ブランド向上に つながる、魅力づくりや戦略的 な情報発信に取り組む。	やや 遅れ	引き続き、本市の都市ブラン ド推進に向け、魅力づくりや戦 略的な情報発信に努めるなか で、若年層を中心とした本市の 認知度向上を課題とし、これま でと同様に雑誌やテレビ、イン ターネットなどのマスメディア に情報発信するとともに、SNSを 積極的に活用することで、本市 の都市ブランド向上につなが る、魅力づくりや戦略的な情報 発信に取り組む。
								実績	19 位										達成率				
V-3-(2)- ② 公共施設 の転活用 などの検 討	27	⑪	⑧ ⑨ ⑪ ⑫	公共施設マネジメ ント推進事業	都市 マネジ メント 政策 課	「公共施設マネジメン ト実行計画」に基づき、 公共施設に関する将来的 な財政負担を軽減するた めの取り組みを進める。	公共施設保有量の縮 減	目標	—	—	—	約20%削減 （R37年度）	継続	10,120	9,108	減額	64,000	課長	1.00	順調	平成29年3月に策定した「公共 施設マネジメント5ヶ年行動計 画」に基づき、実行計画の進捗 状況を的確に把握し、評価を行 いながら進めていくなどの実効 性の確保に努める。 あわせて、5ヶ年行動計画（2 期目）の策定に向けた協議・取 りまとめに着手する。	順調	計画の推進にあたっては、今 後も「公共施設マネジメント5ヶ 年行動計画」により進捗状況の 的確な把握及び評価を行い、公 共施設マネジメントの取り組み を継続的に進めていくととも に、モデルプロジェクトに関し ては、再配置計画の具体化に向 けた検討・調整等を進めてい く。
								実績	—										達成率				
V-3-(2)- ② 公共施設 の転活用 などの検 討	28	⑪	⑧ ⑨ ⑪ ⑫	門司港地域複合公 共施設整備事業	都市 マネジ メント 政策 課	「北九州市公共施設マ ネジメント実行計画」に 基づき、門司港地域にお いて、公共施設の集約等 の取り組みを進める。	門司港地域における 複合公共施設の整備	目標	複合公共 施設の整 備の推進	複合公共 施設の整 備の推進	複合公共 施設の整 備の推進	複合公共施設 の整備の 推進 （R5年度整 備予定）	継続	150,600	149,300	維持	46,500	課長	1.00	順調	【指標廃止の理由】 大里地域における居住ゾ ンの民間売却（公募）の 手続きに入っており、令和2年度は、売却 までの土地の維持管理のみとな る。今後の調整等は公共施設マ ネジメント推進事業で行うこと となったため、指標を廃止する もの。	順調	【指標廃止の理由】 大里地域における居住ゾ ンの民間売却（公募）の 手続きに入っており、令和2年度は、売却 までの土地の維持管理のみとな る。今後の調整等は公共施設マ ネジメント推進事業で行うこと となったため、指標を廃止する もの。
								実績	複合公共 施設の整 備の推進	複合公共 施設の整 備の推進	複合公共 施設の整 備の推進							達成率	—				
							大里地域における居 住ゾンの民間売却 及び公園広場ゾ ンの整備 ※指標廃止	目標	居住ゾ ンの民 間売却 （公 募）の 実施及 び公園 広場ゾ ンの整 備の推 進	居住ゾ ンの民 間売却 （公 募）の 実施及 び公園 広場ゾ ンの整 備の推 進		居住ゾ ンの民 間開 発、公 園広 場ゾ ンの 整備 （R5年 度完 了予定）	継続	150,600	149,300	維持	46,500	課長	2.00	順調	【指標廃止の理由】 大里地域における居住ゾ ンの民間売却（公募）の 手続きに入っており、令和2年度は、売却 までの土地の維持管理のみとな る。今後の調整等は公共施設マ ネジメント推進事業で行うこと となったため、指標を廃止する もの。	順調	【指標廃止の理由】 大里地域における居住ゾ ンの民間売却（公募）の 手続きに入っており、令和2年度は、売却 までの土地の維持管理のみとな る。今後の調整等は公共施設マ ネジメント推進事業で行うこと となったため、指標を廃止する もの。
						実績	居住ゾ ンの民 間売却 （公 募）の 実施及 び公園 広場ゾ ンの整 備の推 進	居住ゾ ンの民 間売却 （公 募）の 実施及 び公園 広場ゾ ンの整 備の推 進	達成率	—	職員							2.00					

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善													
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
29	⑪	⑪	⑪	世界遺産維持活用 保全事業	世界遺産課	ユネスコ世界遺産に登録された官営八幡製鐵所関連施設について、その資産の保全と価値の理解増進のため、眺望スペースの運営管理や市内外へ向けた広報・PR活動を展開し、世界遺産を持つ自治体としての責務を果たす。	登録資産の保全 ※中期目標改訂	目標	耐震設計の実施	保全計画策定	ユネスコへの報告書作成	ユネスコへの報告書作成（毎年度）	継続	28,000	26,000	減額	5,800	課長	0.20	順調	令和元年度まで、資産の保全を「世界遺産登録資産保全活用事業」で、理解増進のためのPRイベント等を「世界遺産推進事業」で実施してきた。今後はこれらを世界遺産としての基本的業務として、一つの事業に統合して実施していくもの。 本事業は、ユネスコに提出する報告書（インタープリテーション計画、資産保全のモニタリング、定期報告書（アジアは2020年予定））などを内閣官房と協議して作成する。また、「世界遺産のある街北九州市」をPRし、世界遺産への理解を深めることを目標にしている。		
								実績	資産の耐震設計の実施										係長				0.20
								達成率	—										職員				0.20
30	⑪	⑪	⑪	世界遺産連携事業	世界遺産課	世界遺産の特色を生かし、来訪者や子どもたちへのシビックプライドの醸成を図る。	旧本事務所眺望スペースの来場者数 ※指標廃止	目標	5万 人	5万 人		20万人（H28～R1年度）	継続	6,000	3,800	減額	5,800	課長	0.20	やや遅れ	世界文化遺産に登録された官営八幡製鐵所関連施設について、子どもたちへのシビックプライド醸成やさらなる理解増進、地域との連携による賑わいを創造していくもの。 【指標廃止・追加の理由】 旧本事務所眺望スペースの来場者数としていたが、事業の成果をより明確にするため、新たに眺望スペース来場者の満足度を指標に設定する。	世界遺産登録された構成資産の保全を行うとともに、市内外にさらなる広報や来場者ニーズの調査、受入れ環境の整備等により、新たな活用方法を模索して観光資源としての魅力向上を図る。	
								実績	1万9千 人										係長				0.20
								達成率	38.0 %										職員				0.20
30	⑪	⑪	⑪	世界遺産連携事業	世界遺産課	世界遺産の特色を生かし、来訪者や子どもたちへのシビックプライドの醸成を図る。	眺望スペース来場者の満足度 ※指標追加	目標			50 %	60%（R4年度）	継続	6,000	3,800	減額	5,800	課長	0.20	やや遅れ	世界文化遺産に登録された官営八幡製鐵所関連施設について、子どもたちへのシビックプライド醸成やさらなる理解増進、地域との連携による賑わいを創造していくもの。 【指標廃止・追加の理由】 旧本事務所眺望スペースの来場者数としていたが、事業の成果をより明確にするため、新たに眺望スペース来場者の満足度を指標に設定する。	世界遺産登録された構成資産の保全を行うとともに、市内外にさらなる広報や来場者ニーズの調査、受入れ環境の整備等により、新たな活用方法を模索して観光資源としての魅力向上を図る。	
								実績											係長				0.20
								達成率											職員				0.20
30	⑪	⑪	⑪	世界遺産連携事業	世界遺産課	世界遺産の特色を生かし、来訪者や子どもたちへのシビックプライドの醸成を図る。	北九州都市圏域内への観光客数	目標	3,652 万人	3,658 万人	3,665 万人	3,673万人（R2年度）	継続	6,000	3,800	減額	5,800	課長	0.20	やや遅れ	世界文化遺産に登録された官営八幡製鐵所関連施設について、子どもたちへのシビックプライド醸成やさらなる理解増進、地域との連携による賑わいを創造していくもの。 【指標廃止・追加の理由】 旧本事務所眺望スペースの来場者数としていたが、事業の成果をより明確にするため、新たに眺望スペース来場者の満足度を指標に設定する。	世界遺産登録された構成資産の保全を行うとともに、市内外にさらなる広報や来場者ニーズの調査、受入れ環境の整備等により、新たな活用方法を模索して観光資源としての魅力向上を図る。	
								実績	集計中										係長				0.20
								達成率	—										職員				0.20
30	⑪	⑪	⑪	世界遺産連携事業	世界遺産課	世界遺産の特色を生かし、来訪者や子どもたちへのシビックプライドの醸成を図る。	北九州都市圏域内の宿泊者数	目標	178.2 万人	178.6 万人	179.0 万人	179.4万人（R2年度）	継続	6,000	3,800	減額	5,800	課長	0.20	やや遅れ	世界文化遺産に登録された官営八幡製鐵所関連施設について、子どもたちへのシビックプライド醸成やさらなる理解増進、地域との連携による賑わいを創造していくもの。 【指標廃止・追加の理由】 旧本事務所眺望スペースの来場者数としていたが、事業の成果をより明確にするため、新たに眺望スペース来場者の満足度を指標に設定する。	世界遺産登録された構成資産の保全を行うとともに、市内外にさらなる広報や来場者ニーズの調査、受入れ環境の整備等により、新たな活用方法を模索して観光資源としての魅力向上を図る。	
								実績	集計中										係長				0.20
								達成率	—										職員				0.20
31	⑪	⑪	⑪	<新>世界遺産集客にぎわい創造事業	世界遺産課	旧本事務所見学バスツアーを実施するとともに、バスツアーにおけるガイドの充実を図る。	バスツアーの参加者数	目標			180 人	180人（R4年度）	—	—	10,000	—	5,800	課長	0.20	—	世界遺産の構成資産である旧本事務所について、建物内部での展示・解説を整備して、内部見学バスツアーを再開するとともに、ガイドの質の向上を図るなどにより来訪者の増加、満足度の向上につなげる。		
								実績											係長				0.20
								達成率											職員				0.20

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善													
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
VII-1-(1)- ① 「東アジア経済交流推進機構」事業の推進	32	⑩	⑧ ⑩	東アジア（環黄海）経済交流推進機構推進事業	アジア交流課	平成16年11月に設立した「東アジア経済交流推進機構（以下「機構」）」の共同事務局として、会員都市との連絡調整、各会議の窓口調整や開催支援を行うとともに、機構活動の管理運営にあたる。 また、機構を構成する4つの部会（「国際ビジネス」「環境」「観光」「ロジスティクス」）の活動を支援するほか機構運営等に関する検討などを行う。	会員都市間ネットワークの活用による共同プロジェクトの件数	目標	4 件	4 件	3 件	4件以上 （毎年度）	継続	6,500	5,900	減額	11,050	課長	0.20 人	順調	各会員都市に所在する企業の機構参加促進に向けて、各都市商工会議所・国際商会との連携を強化し、より活発な機構活動を目指す。 【中期目標の変更内容】 東アジア経済交流推進機構における会議開催予定に変更があったため、21件（H27～R1年度）から19件（R2～R6年度）に変更した。	順調	第三者評価委員会や会員都市からの提言等をもとに、機構の活動についての在り方を検討し、活性化を図る。
								実績	3 件									達成率	75.0 %				
VII-1-(1)- ② 都市間交流・連携の推進	33	⑩	⑩	国際交流事業	アジア交流課	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との様々な分野での交流推進を図るため、訪問団の受け入れや本市からの訪問団派遣等の交流事業を行う。	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との交流事業参加者延べ人数	目標	330 人	330 人	330 人	330人以上 （毎年度）	継続	6,781	8,881	増額	14,950	課長	0.30 人	順調	様々な分野において、姉妹・友好都市との交流を深めていくとともに、海外諸都市についても、多分野からの訪問団の受け入れなどを通して交流を広げていく。	順調	姉妹・友好都市、アセアン諸国等のアジア新興国との様々な分野における交流・連携を一層強化していく。
								実績	324 人									達成率	98.2 %				
VII-1-(1)- ② 都市間交流・連携の推進	34	⑩	⑩	アジアゲートウェイ推進事業	アジア交流課	アセアン諸国などアジアの新興国との経済交流やシティプロモーションを進める。	アセアン諸国などアジアの新興国との交流事業参加者延べ人数	目標	110 人	210 人	110 人	110人以上 （毎年度）	継続	1,965	1,965	維持	8,820	課長	0.18 人	大変順調	ベトナム・ハイフォン市との連携強化や交流の進展を図るとともに、アセアン諸国との多分野における交流を進める。	順調	姉妹・友好都市、アセアン諸国等のアジア新興国との様々な分野における交流・連携を一層強化していく。
								実績	453 人									達成率	411.8 %				
VII-1-(1)- ② 都市間交流・連携の推進	35	⑩	⑩	ASEAN新都市間連携促進事業	アジア交流課	発展著しいアセアン地域において、都市間連携、経済交流の推進・強化のため、カンボジア・プノンペン都との都市間連携強化を行うとともに、その他の都市との新規交流可能性を検討する。	カンボジア及びアセアン新規交流都市との交流事業参加者延べ人数	目標	20 人	20 人	20 人	20人以上 （毎年度）	継続	2,000	2,000	維持	7,955	課長	0.17 人	順調	プノンペン都との具体的な交流内容について協議するため訪問団を派遣し、さらなる交流の拡大を図る。	順調	姉妹・友好都市、アセアン諸国等のアジア新興国との様々な分野における交流・連携を一層強化していく。
								実績	23 人									達成率	115.0 %				
VII-1-(2)- ② 文化・スポーツ交流の拡大	36	⑩	⑩	国際交流事業	アジア交流課	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との様々な分野での交流推進を図るため、訪問団の受け入れや本市からの訪問団派遣等の交流事業を行う。	姉妹・友好都市を中心とした海外諸都市との交流事業参加者延べ人数	目標	330 人	330 人	330 人	330人以上 （毎年度）	継続	6,781	8,881	増額	14,950	課長	0.30 人	順調	様々な分野において、姉妹・友好都市との交流を深めていくとともに、海外諸都市についても、多分野からの訪問団の受け入れなどを通して交流を広げていく。	順調	姉妹・友好都市との様々な分野における交流・連携を一層強化していく。
								実績	324 人									達成率	98.2 %				

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善										
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
VII-2-(2)- ② 海外の経 済事務所 の活用	37	⑰	⑧ ⑱	中国ビジネスサ ポート拠点整備事 業	アジア交 流課	駐大連北九州市経済事 務所を設置・運営し、地 元企業のビジネスサポ ートや進出支援を行うと ともに、本市と中国の都市 とのネットワークを形 成・強化する。	海外事務所の本市地 域企業への貢献度	目標	70 %	80 %	80 %	80% 以上 (R2年度)	縮小	51,958	45,548	減額	3,075	課長	0.05 人	大変 順調	上海事務所の体制変更後も、 海外事務所利用企業数及び、地 域企業への貢献度が、減退しな いよう努めるとともに、引き続 き北九州市への訪問団の支援を 進める。	大変 順調	地元企業のビジネスサポート 強化、増大するインバウンド需 要の積極的な取り込みに加え、 経費削減を含めた中国事務所の 適切な運営方法を検討する。
								実績	89.5 %									係長	0.10 人				
								達成率	127.9 %									職員	0.20 人				
							海外事務所を利用し た企業数	目標	379 社	390 社	250 社	R2年度の 状況によ り設定											
							実績	563 社															
							※中期目標改訂	達成率	148.5 %														

【Plan】 計画 / 【Do】 実施													【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	SDGs 主 な ゴ ー ル 番 号	SDGs ゴ ー ル 番 号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）		
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数	
VII-2-(3)- ② 国際都市 にふさわしいまち づくり	38	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生の推進	国際 政策 課	日本人市民に対して、 多文化共生に関する意識 啓発や国際交流の機会や 場の提供を行うことで、 外国人を受け入れる地域 づくりを目指すとともに、 すべての市民が安心して暮らし、 自己の能力を發揮できる「多文化 共生先進都市」としてのま ちづくりを推進する。	市民の「多文化共 生」という言葉の認 知度 ※中期目標改訂	51.8% (H29年 度)	目標 50 %	53 %	53 %	60% (R6年度)	継続	57,040	43,565	減額	10,800	課長 0.20 人	係長 0.40 人	職員 0.60 人	順調	引き続き、市民講座や外国人 市民と日本人市民の交流イベ ントの実施等の多文化共生啓発事 業を行い、市民意識の向上を図 る。また、多文化共生に関する 民間団体との協働を推進し、在 住外国人の活用を図りながら意 識啓発を行っていく。 【中期目標の変更内容】 中期目標を53%（R1年度）に していたが、今後も多文化共生 の意識啓発を進めていくため、 60%（R6年度）に変更。		
	39	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	地方創生に向けた 留学生等受入定着 促進事業	国際 政策 課	留学生等を地域で支 える体制を構築し、留学誘 致、生活支援、就職支援 の各施策を一体的に実施 し、定着促進を図る。	外国人人口の社会動 態増加数（H28年増 加数比） ※指標の廃止	外国人社 会動態増 加数＋ 1,010人	目標 +1,400 人	+1,600 人		+1,600人 (R1年度)	継続	12,500	10,900	減額	8,700	課長 0.30 人	係長 0.30 人	職員 0.30 人	順調	引き続き、留学生支援に取り 組むとともに、留学生実態調査 を実施し、留学生支援事業を体 系的に推進していくためのニー ズ把握を行う。 【指標追加・廃止の理由】 本事業の目的が外国人の長期 的な本市への定着であるため、 より具体的な指標として留学生 の市内企業への就職者数50人以 上（R2年度）に変更。	質の高い国際都市としてのま ちづくりを推進するため、様々 な機会を通じて外国人市民から のニーズを把握し、外国人市民 の生活支援や各種施策につなげ ていくと共に、市民の多文化共 生に対する認知度を高めていく とともに、国際ブリッジ人材と しての留学生の受入定着にも力 をいれていく。	
	40	⑪	④ ⑩ ⑪ ⑰	多文化共生ワンス トップインフォ メーションセン ター関連事業	国際 政策 課	外国人市民が安心して 生活するための情報提 供や相談に多言語で一 元的に対応する「北九州市 多文化共生ワンストップ インフォメーションセン ター」の運営を行う。	外国人市民の生活環 境の向上 （多文化共生の現状 調査で暮らしやすい と回答） ※中期目標改訂	79.7% (H26年 度)	目標 80 %	単年度目標 設定なし		80%以上 (R6年度)	—	24,740	24,715	維持	2,325	課長 0.05 人	係長 0.10 人	職員 0.10 人	—	相談窓口等を通じ、外国人市 民の生活等の課題やニーズの把 握に努めるとともに、相談内容 に応じて関係機関と連携し、相 談内容の解決につなげる。 【中期目標の変更内容】 中期目標を80%（R1年度）に していたが、今後も引き続き外 国人支援の充実に取り組むた め、80%以上（R6年度）に変 更。		

【Plan】 計画 / 【Do】 実施											【Check】 評価 / 【Action】 改善															
施策番号・施策名	No.	SDGs 主要 ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）				
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数			
VII-3-(1)- ① 県内周辺 市町村との 広域連 携推進	41	⑪	⑪ ⑰	新たな広域連携推 進事業	政策 調整 課	<p>国の進める「連携中核都市圏構想」に基づき、近隣16市町と連携中核都市圏「北九州都市圏域」を形成した。圏域の成長戦略として策定した「都市圏ビジョン」の推進を図る。</p> <p>また、下関市との連携については、県境を越えた連携中核都市同士の連携の可能性を検討していくものである。</p> <p>本市と下関市両市の企画部門等で会議を開催し、両市の経済成長に繋がる取り組みについて協議・検討</p>	「連携中核都市圏ビジョン」掲載の事業のうち、事業を実施した割合（一部実施含む）	69% (H28年度)	目標 80 %	実績 90 %	90 %	90 %	90%	(R2年度)	継続	2,285	2,285	維持	13,300	課長 0.20 人	係長 0.80 人	職員 0.40 人	順調	「連携中核都市圏ビジョン」が令和2年度で終了することを見据え、第2次計画の策定に向けて新規事業の追加や既存事業の見直しについて取組む。	順調	今後も県内周辺市町村との連携を一層強化していく。 また、北九州都市圏域連携事業については、令和2年度が実施計画の最終年度であり、これまで支援を行ってきた事業者の販路拡大等、自走に向けて総仕上げを図る。
	42	⑧	⑧ ⑰	北九州都市圏域連 携事業	政策 調整 課	<p>本市と近隣自治体（福岡県北東部の16市町）で形成された、連携中核都市圏「北九州都市圏域」のブランディング、プロモーション事業を行う。</p>	北九州都市圏域内への観光客数 ※中期目標改訂	3,640万 人 (H27年度)	目標 3,652 万人	実績 集計中	3,658 万人	3,665 万人	3,673万 人 (R2年度)	3,673万 人 (R2年度)	継続	9,100	5,090	減額	17,400	課長 0.10 人	係長 0.65 人	職員 1.30 人	順調	<p>地方創生推進交付金実施計画の取組期間が令和2年度で終了することを見据え、イベント等により「食」を通じた圏域PRの総仕上げを行うとともに、圏域内事業者が自走するための仕掛け作りを行う。</p> <p>【中期目標の変更内容】 地方創生推進交付金実施計画の取組期間に目標年度を合わせるとともに、時点更新を行い、観光客数の目標を3,658万人（R1年度）から、宿泊者数の目標を178.6万人（R1年度）から上方修正した。</p>	順調	

企画調整局

【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善																	
施策番号・施策名	No.	SDGs 主な ゴール 番号	SDGs ゴール 番号	基本計画の施策を構成する 主な事業・取組	主要事業 所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の 方向性	R1年度 予算額 （千円）	R2年度 予算額 （千円）	事業費 の増減	人件費（目安）			H30年度 事業 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）	H30年度 局施策 評価	R2年度に向けて 強化・見直した内容 （評価に対する改善方法等）					
							指標名等	現状値 （基準値）	H30年度	R1年度	R2年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数				
VII-3-(1)- ② 近隣主要 都市との 都市間連 携	43	⑪	⑪	新たな広域連携推 進事業	政策 調整 課	<p>国の進める「連携中核都市圏構想」に基づき、近隣16市町と連携中核都市圏「北九州都市圏域」を形成した。圏域の成長戦略として策定した「都市圏ビジョン」の推進を図る。</p> <p>また、下関市との連携については、県境を越えた連携中核都市同士の連携の可能性を検討していくものである。</p> <p>本市と下関市両市の企画部門等で会議を開催し、両市の経済成長に繋がる取り組みについて協議・検討</p>	「連携中核都市圏ビジョン」掲載の事業のうち、事業を実施した割合（一部実施含む）	69% (H28年 度)	目標 80 %	実績 90 %	達成率 112.5 %	90 %	90 %	90 %	90% (R2年度)	継続	2,285	2,285	維持	13,300	課長 0.20 人	係長 0.80 人	職員 0.40 人	順調	「連携中核都市圏ビジョン」が令和2年度で終了することを見据え、第2次計画の策定に向けて新規事業の追加や既存事業の見直しについて取組む。	順調	今後も近隣都市との連携を一層強化していく。
	44	⑧	⑧	⑪	⑪	関門地域魅力向上 事業	政策 調整 課	<p>下関市と連携して、関門地域の魅力を官民協働でブランド化し、関門ファンや宿泊型滞在観光客の増加を図る。</p> <p>※中期目標改訂</p>	宿泊者数、日帰り観光客数の増加に伴う観光消費額の増加額	—	目標 3,279,833 千円	実績 集計中	達成率 —	3,165,422 千円	2,451,595 千円	11,957,000千円 (H28~R2年度)	継続	18,200	0	減額	20,750	課長 0.50 人	係長 0.90 人	職員 0.80 人	順調	<p>関門地域の限られた人・モノ・サービスの中で地域全体の観光における経済波及効果の拡大を図り、「稼ぐ力」「活気」のある地域を実現していくための新たな観光サービスの開発・展開を目指す。</p> <p>【中期目標の変更内容】 第2期北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略KPI更新に伴い、期間を変更し、目標を9,505,405千円（H28~R1年度）から11,957,000千円（H28~R2年度）に変更した。なお、地方創生推進交付金のKPIとも一致。</p>	順調
VII-3-(2)- ② 九州各地 域などの 連携	45	⑪	⑪	広域行政推進事業	政策 調整 課	<p>【西九州軸連携】 九州と本州の結節点である地の利点を活かしながら、鹿児島県南九州市との都市間交流の推進や、九州新幹線沿線自治体（鹿児島市、熊本市、福岡市）との四都市連携により九州の一体的な発展とアジアの巨大都市と対等に渡り合うため、西九州軸の広域連携の強化を図るものである。</p>	九州地域などにおける交流・連携都市数（累計）	26都市 (H28年 度)	目標 26 都市	実績 27 都市	達成率 103.8 %	27 都市	27 都市	27 都市	27都市 (毎年度)	継続	4,454	4,454	維持	3,075	課長 0.05 人	係長 0.10 人	職員 0.20 人	順調	<p>国・県への要望活動等を継続して実施し、東西九州軸の発展を目指す。</p> <p>【中期目標の変更内容】 東九州軸地域における交流及び連携都市の枠組が固まり、連携都市数を維持していくことを方針としたことから、目標については、これまでの連携都市数の増加から維持に変更する。</p>	順調	交流及び連携都市の枠組を今後も維持・継続していくことで、九州の各地域との連携を一層強化していく。
						<p>【東九州軸連携】 東九州軸では東九州自動車道全線開通を見据え、京築地域や大分・宮崎・鹿児島市の都市との連携構築に取り組む。</p>	連携事業の実施（西九州軸での活動）	1回 (H28年 度)	目標 1 回	実績 1 回	達成率 100.0 %	1回 (毎年度)	1回 (毎年度)	1回 (毎年度)	1回 (毎年度)												